

令和6年度
令和7年度

レジリエンス
補助金

秦野ガス株式会社

神奈川県秦野市／バルブ開閉器(令和7年度事業進捗中)
ガバナ遠隔監視システム(令和5年度・6年度実施)

レジリエンス補助金について、バルブ開閉器とガバナ遠隔監視システムの両方の申請を担当された、供給部供給管理課アシスタントマネージャーの曾我さんにお話しをお聞きました。

補助事業の導入経緯について

保安推進プランナーからと神奈川県ガス協会技術部会での情報提供で、「レジリエンス補助金」があることを知りました。

【バルブ開閉器】

導入に至った経緯：災害時の応援受入準備でバルブ開閉器の想定必要数から、現在の自社所有数では不足していることが分かり、バルブ開閉器の購入に踏み切りました。

補助金活用の経緯：補助金の公募説明解説資料から、当社で採用しているバルブの操作角(□45)が特殊バルブに該当することが分かりました。また、設備費用の2/3が補助金対象(上限50万)であることも分かり、応募をいたしました。

申請期間：令和6年10月頃から2ヶ月程度、次年度事業の計画として社内予算資料に計上を行いました。そして令和7年4月の公募開始より見積り依頼先の選定を行い、3ヶ月程度で申請を行いました。

請負業者への発注経緯：バルブ開閉器を取り扱っている事業者はある程度限られてしましますが、弊社と過去に取引のあった事業者を含めて3社に見積りを依頼し、最も安価な金額だった同社への発注となりました。

【ガバナ遠隔監視システム】

導入に至った経緯：災害時の対応として圧力・SI値などを日々遠隔監視することで、異常発生時の早期発見と早期復旧につなげるためです。平常時には、圧力情報の記録や導管工事時の圧力監視などに活用しています。

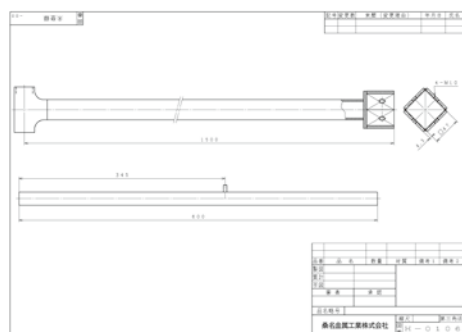
補助金活用の経緯：既存システムの老朽化や通信方式の停波を見据え、数年前からシステムメーカー等と更新に向けた検討を進めてまいりました。今回、本補助金が更新・新規いずれも対象となることから、応募を決定いたしました。

申請期間：令和5年度は、既にシステム更新の検討を進めていたこともあり、3ヶ月程度で済みました。令和6年度については、設置する子局全てが新設になることから、検討・申請に12ヶ月程度かかりました。

請負業者への発注経緯：既に導入済みのガバナ遠隔監視システムについては、老朽化や通信方式の停波により継続使用が困難となることから、数年前より更新に向けた検討を進めていました。システム提供4社の中で、当社の要求仕様(電源100V



曾我マネージャー：ガバナ遠隔監視システムにより、事務所に居ながらにして把握できる情報が大幅に増えました。



バルブ製図

方式・将来拡張機能)を満たし、かつ低コストの提案を提示されたのは同社のみであったため、特命発注となりました。

ガバナ遠隔監視システムの機能について

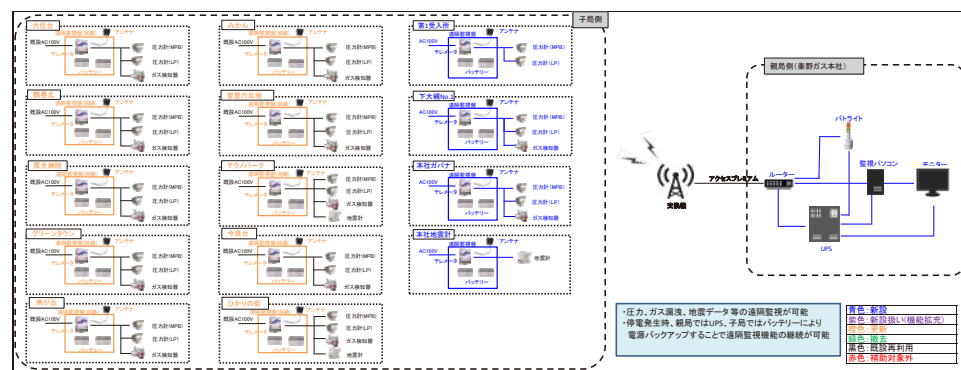
主に以下の3点です。①各ガバナ情報を並べて1画面で確認できる視認性、②複雑な操作を必要とせず、誰でも簡単に扱える操作性、③ガバナ遠隔遮断機能等、将来の機能拡充を見据えた100V電源方式を重要視いたしました。



親局システム画面



制御盤内部



システムフロー図

交付申請書作成にあたっての懸念事項と解決法について

補助金を申請するにあたり、申請書類には様々な添付資料が必要でした。中には普段の業務では取り扱わない資料も多く、揃えるまでに時間と労力を要しました。

申請書類の作成については、事前に都市ガス振興センターによるWeb説明会が行なわれ、補助事業についての詳細説明、資料の提出時期、各資料の作成例の紹介など、交付申請についてのポイントを確認することができました。また、説明会の内容はWeb上で動画配信されており、再確認することができます。さらに、説明会資料でわからないことや疑問点などは、都市ガス振興センターの担当者および日本ガス機器検査協会の担当者が、親切に対応してくださいました。

交付決定(採択)後の事業遂行にあたっての不安点と、その解消法について

【バルブ開閉器】

不明な点は、都市ガス振興センターや日本ガス機器検査協会の担当者に随時確認を取りながら、事業を進めて行く予定です。

【ガバナ遠隔監視機能】

ガバナ用地(借地)への電気引込みについて、遅滞なく工事をご承諾いただけるかを懸念しておりました。そこで、防災レジリエンス対策である旨を丁寧に説明したところ、土地所有者の皆様にご理解いただき、計画どおりに施工を進めることができました。また、中間報告や実績報告書の作成では、都市

ガス振興センターや日本ガス機器検査協会の担当者に随時確認を取りながら、作成を進めることができました。

今後につきましては、監視対象となるガバナはまだ残存していますが、ガバナ室の立地や土地所有者の条件によって100V電源を引き込むことが困難なことから、設置を見合わせている状況です。

災害時を想定した変化について

【ガバナ遠隔監視機能】

本事業において既存の遠隔監視システムを更新するとともに、新たに子局を18カ所設置しました。長期使用により老朽化が懸念されていたシステムを刷新できたことに加え、監視拠点は従来の約2倍となり、事務所に居ながらにして把握できる情報が大幅に増えました。情報量の拡充によって、災害時に、よりの確に対応できるようになると感じています。

補助対象設備を導入する施設へ他の補助金を活用

都市ガス振興センターの「令和2年度災害時の対応能力強化に資する天然ガス利用設備導入支援事業」補助金を活用したことがあります。

具体的には、災害時等の帰宅困難者の受入施設として秦野市と協定を結んでいる当社会議室およびショールームに設置しているGHPを、非停電対応型から停電対応型へ更新しました。

今後、補助金活用を検討されている方々へのアドバイス

【バルブ開閉器】

現在、多くの事業者が災害時の応援受入準備を進めていると思います。その中の準備様式にあるように、バルブ開閉器の準備が必要になります。現在、採用しているバルブが特殊バルブに該当し、なおかつ開閉器の自社保有数が足りないと感じている事業者様は、この機会の活用をお勧めします。

【ガバナ遠隔監視機能】

システム設置には一定の検討期間を要しますが、当社で行った新規100V電源引込みなどの工期を要する作業も、補助事業期間内に問題なく対応できました。システムの新規導入や更新をお考えの事業者様にとっては良い機会ですので、ぜひ応募されることをお勧めいたします。

〈補助事業者概要〉

代表者：奥井智治 代表取締役
需要家数：14,752個(2025年3月末) 従業員数：37人

〈補助事業概要〉

バルブ開閉器

導入時期：令和7年11月中旬予定
導入設備：バルブ開閉器「45×45」10セット 桑名金属工業(株)製
設備の用途・機能・目的：災害時に応援事業者が被災事業者の本支管バルブ・供給管バルブの開閉等を行う際、型式の違うバルブを開閉することが可能となる工具。

ガバナ遠隔監視システム

導入時期：令和6年2月9日、令和6年12月13日
導入内容の概要：(令和5年度)親局・子局側装置(ガバナ14カ所)の新規導入・更新
(令和6年度)子局側装置(ガバナ14カ所)の新規導入
2年度設備導入費：総額約3,000万円(補助金含む)
設備の用途・機能・目的：ガバナの圧力やガス漏洩等を常時遠隔監視することで、異常の早期把握のため。

導入設備：遠隔監視ソフト、子局盤、テレメータ、圧力センサー、ガス検知器